

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択（ ／ ／ ）
授業科目名：特別支援教育 英語表記：Special-needs Education ナンバリング：2315			単位数：2単位 （半期）講義 担当教員名：伊藤道雄 担当形態：単独
科目／系列	教育の基礎的理解に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由病弱等を含む障害のある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけることができる。 2. 発達障害や軽度の知的障害等特別な支援を必要とする幼児児童及び生徒の支援の方法を例示できる。 3. 特別の教育的ニーズが必要な児童等の学習上又は生活上の困難とその組織上の対応を理解できる。			
【授業の概要】 障害のある子どもの生きにくさと子どもの良さを理解し、支援・指導の在り方を体験的に理解し見識を広げる。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】 1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。 ○ 2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。 ○ 3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。 ○ 2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 ○ 3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】 1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。 ○ 2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。 3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。 ○			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・特別支援教育の理念を知る 第2回：肢体不自由の理解と指導・支援（車椅子の体験） 第3回：肢体不自由の理解と指導・支援（特性の理解） 第4回：就学指導の手続きを理解し、相談等の支援の在り方を知る 第5回：視覚障害児の理解と指導・支援（白杖の体験） 第6回：視覚障害児の理解と指導・支援（盲者の特性の理解） 第7回：聴覚障害児の理解と指導・支援（ろう学校の教育） 第8回：聴覚障害児の理解と指導・支援（手話の活用の体験①） 第9回：聴覚障害児の理解と指導・支援（手話体験②、手記） 第10回：聴覚障害のある人々の生き方とその支援（まとめ） 第11回：知的障害児の理解と指導・支援（特別支援学校の教育） 第12回：知的障害児の理解と指導・支援（特性の理解とテスト等） 第13回：注意欠陥多動性障害・学習障害児の理解と指導・支援（特性の理解） 第14回：学習障害児や特別な教育的ニーズを必要とする子の理解と			【授業時間外の学習】 ・特別支援教育の理念を調べる。（1時間） ・肢体不自由児の課題を調べる。（1時間） 肢体不自由児の特性をまとめる。 ・就学の制度を調べる（1時間） ・視覚障害者の課題を調べる。（1時間） ・視覚障害者への配慮調べる。（1時間） ・聴覚障害者の課題を調べる。（1時間） ・手話の理解と活用をまとめる。（1時間） ・知的障害者の課題を調べる。（1時間） ・ADHD児の課題を調べる。（1時間） ・学習障害児の課題を調べる。

指導・支援（特性の理解） 第15回：自閉症スペクトラム障害の理解と支援（特性の理解） ※個別の教育支援計画と個別の指導計画、支援システム ※早期発見・早期支援、保護者の心理と障害受容 定期試験：筆記	(1 時間) ・ 自閉症児の課題を調べる。 (1 時間)
【授業の方法】 講義、発表（毎回、課題をレポートし発表する。予習が必要。）。発表に対しフィードバックする。体験活動を通じ、障害を理解する。	
【テキスト】 「はじめての特別支援教育～教職を目指す大学生のために～」 柘植雅義編 有斐閣アルマ	
【参考書・参考資料等】 適宜配布する。	
【学生に対する評価】 定期試験の成績（50％）、提出物や発表・調べ学習（50％） ルーブリック活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 実習において子どもたちの実態把握を十分しておいてほしい。	
実務経験の有無：有	実務経験：元小学校教諭、元特別支援学校教諭、校長、指導主事
【実務経験を生かした教育内容】 教諭や担任の経験を活かし、障害のある子のかかわり方やよりよい指導を実践的に行う。	